



みの虫は大きくなったら何になるの

みの虫はガの仲間

秋から冬にかけて、木の葉がかれ、枝だけになったころ、枝にぶら下がったみの虫が目に
つきます。このみの虫のふくろを破って、中をのぞいてみると、うじ虫のようなものが見え
たり、さなぎの殻が見つかったりするはずですよ。

みの虫は、じつは大きくなると、ミノガというガになります。木の枝や葉を集めて作った、
虫の入っているふくろが、昔、雨具に使ったみの（わらで作った雨がっぱ）に似ているこ
とから、みの虫という名前がつけました。

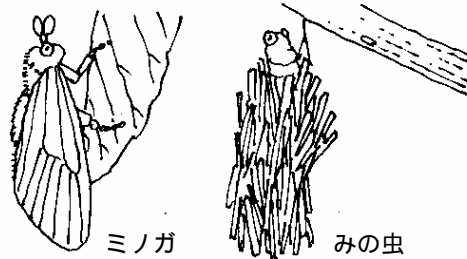
みの虫の一生

ふつうのミノガは、1年に1回、5月～7月ごろ羽化し、みの虫のふくろを破ってガが
出てきます。でも、ガになるのは、オスだけなのです。メスは、一生、うじ虫のような体
の形は変わらず、みの中に入っています。

オスのミノガは、羽化するとすぐ、みの中に入ったメスを探して交尾し、メスはみの中
で卵を産み、幼虫がかえったころ、死にます。

卵からかえった幼虫は、木の葉や小枝で
のを作って中に入り、葉を食べて成長します。

秋になると、みの虫の口を閉じて、動か
ないように木の枝にとめてしまい、幼虫で冬をこ
します。春になると、さなぎになり、やがて
ガになるのです。（監修・中山 周平）



ミノガ

みの虫

